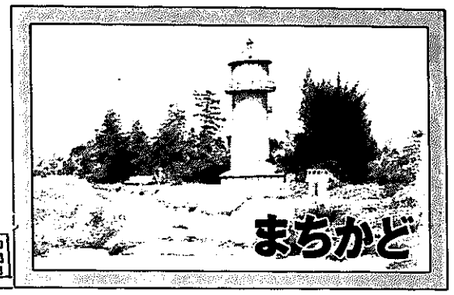


こんにちは

生きる喜びづくりに情熱を燃やす

中村芳雄さん（上大野・農業・25歳）

レクリエーションは、人間の生きる喜び。この生きる喜びづくりに情熱を燒やす中村芳雄さん。

五年前に、レクの愛好サークル『ゆにれっく』に入会。「ある時、ゆにれっくの会員がレク指導をしてくれたんです。とても楽しかったし、この楽しさを多くの人にも分け与えたいと思い入会しました」と話す中村さん。以来、レクの研究やレク指導を行ってきました。

四年前、父親の幸雄さんが経営する観光果樹園で、子供たちにゲーム指導を試みてみました。「子供が好きだったし、それに何と言っても観光果樹園は人が多く集まり、ここを利用して人間交流の場としたい」と、ユニークな発想から、ゲームもできる果樹園が誕生しました。

梨狩りを楽しみながらゲームができるとあって、とても好評で今年は十二の保育園や小学校が来園しました。昨年までは、雨が降ると果樹園ではできないので、中村さんの家の中でゲーム指導。今年から雨が降っても楽しめるようにと、果樹園の一部を全天候型に改良しました。

「子供たちは梨狩りより、果樹園全体を使って行うゲームの方が楽しいみたいです。それに、今度は家族で来るから、またゲームを教えてと頼まれます」と話す中村さんは、子供たちから『ゲームのお兄さん』と呼ばれています。

レクが取り持つ縁で結ばれた奥さんと「まもなく生まれる子供と一緒にファミリーゲームを楽しみ、笑顔のたえない家庭づくりが夢」と、抱負を語る中村さんです。

「これからは、家族で楽しめるファミリーゲームも考えていきたい」と、話す中村さん

この日は臼井保育園児にゲーム指導

子供たちの梨狩りのお手伝いも

白根大火を予知した？お地蔵様

語る人

田辺粂市さん＝（七九）（桜町一）

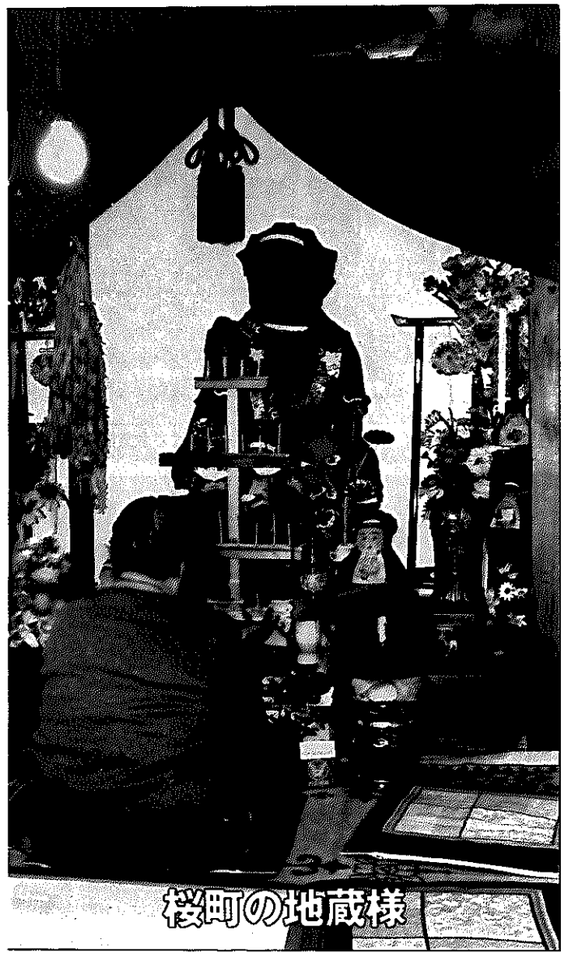
私の思い出 昔のわが街

桜町の地蔵様は、百五十年ほど前に浦梨の伊藤さんという人が、自分の屋敷に置くため長岡方面から買ってきたものだそうです。

しかし、重いため新堀通りまで運んで来るのがやっとで、そこから浦梨まで何回も運ぼうとしたそうですが、だめだったようです。

きっとお地蔵様は、その場所から動きたくなかったんですね。

昭和六年五月十三日に白根大火がありましたが、その少し前から、この地蔵様の顔から汗（水）がしたたり落ちるのを、お参りする人が何人も見たそうです。いくら「長岡方面の石が水をよぶ」といっても、少し異常でしたね。これは、地蔵様が白根大火を予知し、危険を知らせていたのではないかと評判になり、何か徳を持っておられるということで、それ以来お参りする人が多くなりましたよ。


桜町の地蔵様

白根人物伝

★熊四郎兵衛

小蔵子の農である。天明（一七八一―八八年）年中、新発田藩は白蓮郷開墾の検地を郡吏坂井惣吉らに行わせた。四郎兵衛は郡吏の命を受けて標示を整備しておこたりなく、家紋入提灯を与えられた。

また俠勇腕力があり、手負いの大熊が村内を荒らしたとき、棍棒でなぐり殺して熊四郎兵衛といわれた。四郎兵衛は白蓮郷新田の開拓後、功を賞して四町余りの田を与えられた。

風味佳良といわれる白蓮鮒を四つ網でとることをはじめたのも四郎兵衛という。文化元年（一八〇四年）三月二日に六十七歳でなくなった。（中蒲原郡誌から）

★石高惣右衛門

新発田藩領赤渋村の名主で、後に名を精一郎と改めた。明治二年県から命ぜられ、大河津分水工事の世話をした。同二十六年に六十一歳でなくなった。

（信濃川改良工事沿革誌から）

「私の思い出 昔のわが街」欄へあなたの思い出の場所を。連絡は企画財政課広報広聴係へ。